

「あびき」の発生に注意してください

これから春にかけて大きな「あびき」(副振動)が発生しやすい時期を迎えます。「あびき」により、海岸や河口付近の低い土地での浸水や冠水、係留中の船舶の流出といった被害が発生するおそれがありますので、長崎地方気象台が発表する情報にご注意ください。

「あびき(副振動)」とは海面が数分から数十分の周期で昇降を繰り返す現象のことで、振幅の大きな「あびき」が発生すると、潮位の上昇で海岸や河口付近の低地での浸水被害が発生するほか、海面の昇降や強い潮流によって港湾施設の破損、係留している船舶の流出・転覆などの被害が発生します。また、大潮の満潮と「あびき」の発生が重なると、振幅が大きくなっても浸水等の被害が発生するおそれがあります。

長崎地方気象台では、「あびき」により被害が発生するおそれがある場合は、潮位情報や高潮警報・注意報を発表します。気象台が発表するこれらの情報にご注意ください。

潮位情報や高潮警報・注意報は下記ページで確認することができます。

気象情報(潮位情報) :

https://www.jma.go.jp/bosai/information/#area_type=offices&area_code=420000&format=table

警報・注意報 :

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=offices&area_code=420000&lang=ja

「あびき」は、長崎の方言で漁網が速い流れで流される「網引き」を語源としています。詳細については、以下の資料を参考にしてください。

<https://www.data.jma.go.jp/nagasaki-c/gyomu/hodo/siryou/abiki-leaflet.pdf>

問合せ先：長崎地方気象台

電話：095 - 811 - 4862

1. 「あびき」(潮位の副振動)とは

「あびき」とは、満潮・干潮の潮位変化(天文潮)より短い周期(長崎湾では約30分)で上下動する潮位変化のことです(図1)。長崎では、漁網が速い流れで流される「網引き」から「あびき」と呼ばれます。

これまでの研究により「あびき」の発生原因は、東シナ海の低気圧や前線が九州の南海上を通過する際に気圧が東シナ海上で2~3hPa変化することで発生することがわかっています。この変化により海面が上下し、東シナ海を伝わってくる間に徐々に上下動が大きくなり、長崎湾のように西に開いた湾で、さらに大きくなります。これから春先にかけて、「あびき」が発生しやすい時期になります(図2)。

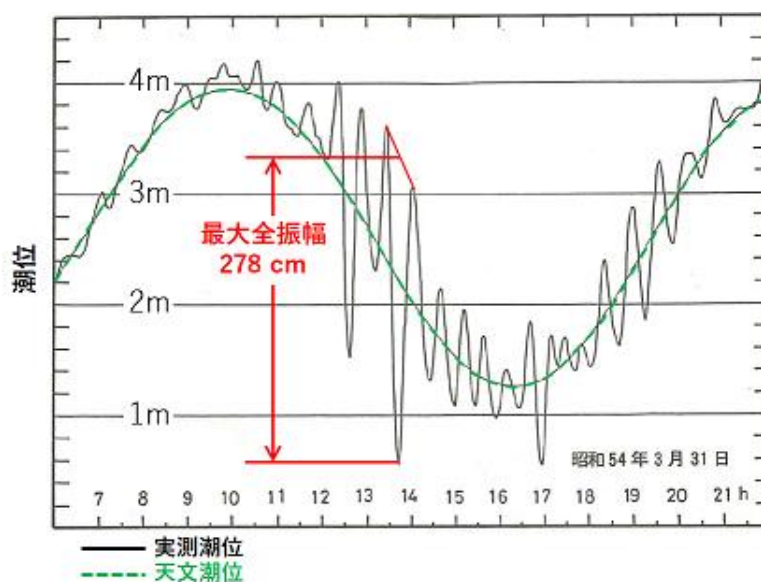


図1 1979年(昭和54年)3月の長崎検潮所における天文潮位(緑)と副振動(あびき)(黒)の例

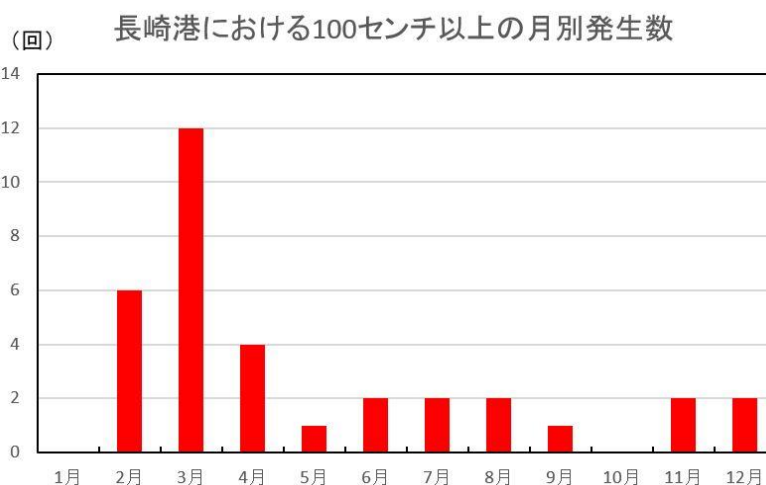


図2 長崎港における1997年~2022年での100cm以上の「あびき」の月別発生回数

2. 「あびき」による被害

振幅の大きな「あびき」が発生すると、海岸や河口付近の低地では浸水や冠水、係留中の船舶の流出といった被害が発生しています（表）。

長崎検潮所における観測史上最大となった1979年（昭和54年）3月31日の「あびき」（最大全振幅（別紙1・図1参照）278センチ）では、長崎港だけでなく五島でも漁船に被害がでました（写真）。最近では、2019年（平成31年）3月21日のもので、最大全振幅は103センチでしたが、大潮の満潮時と重なったため、長崎検潮所の最高潮位を記録しました。この時には、床上・床下浸水のほか、線路や道路が冠水し、JRが運休するなどの影響がでました。

表 九州、山口県で発生した近年の「あびき」による主な被害事例

発生日	被害の発生場所	被害状況
2009年2月25日	熊本県天草市	床上・床下浸水
	鹿児島県薩摩川内市上甕島	床下浸水、小型漁船の沈没・転覆
	鹿児島県いちき串木野市	小型漁船の沈没
	鹿児島県南さつま市	小型漁船の転覆
	鹿児島県屋久島町	小型漁船の小破
2009年7月15日	山口県萩市	床上・床下浸水
	長崎県対馬市	床上・床下浸水、小型漁船の転覆・破損・浸水
2010年2月1日	鹿児島県薩摩川内市上甕島	床下浸水
2010年3月1日	長崎県長崎市	床上浸水
2010年3月3日	鹿児島県薩摩川内市上甕島	小型漁船の転覆
2010年3月4日	長崎県長崎市	床下浸水
2019年3月21日	長崎県長崎市	床上・床下浸水、線路の冠水

長崎検潮所で過去最高潮位を記録



写真 1979年3月31日の長崎県福江島富江港での船舶乗揚げ被害（西部海難防止協会「津波（長崎港アビキ）対策調査委員会報告書」（昭和57年3月）より）